

～出演者プロフィール～

沼田園子 ヴァイオリン

東京藝術大学弦楽科を首席で卒業。同大学大学院後期博士課程単位取得。パガニーニ生誕200年祭国際コンクール第3位、マリア・カナルス国際コンクール、ヴァイオリンとピアノ二重奏部門において第2位入賞など受賞歴多数。ソリストとして水戸室内管弦楽団や国内主要オーケストラ、海外のオーケストラとも共演。ピアニスト蓼沼明美とのファイナ・デュオは2016年にデュオ結成30周年を迎えた。現在、東京芸術大学、愛知県立芸術大学各講師、洗足学園音楽大学客員教授など後進の指導も行っている。

蓼沼明美 ピアノ

東京藝術大学音楽学部を首席で卒業。同大学院修士課程修了。マリア・カナルス国際コンクール、ヴァイオリンとピアノ二重奏部門において第2位入賞。日本音楽コンクール審査委員会特別賞受賞。特にアンサンブル・ピアニストとしての演奏活動を活発に行い、フルートのアンドレアス・ブラウ、ベルリン弦楽四重奏団を含む内外の多くの演奏家と共演し、高い信頼を得ている。現在、東京学芸大学、国立音楽大学各講師として後進の指導も行っている。

♪今後の院内演奏会♪

来春の院内演奏会はフレッシュな管楽器奏者の登場です！

2019年2月25日（月）午後2時開演

若手オーボエ、ファゴット奏者らによる管楽器と弦楽器のコンサート♪

心あたたまるひびきのとき

Vol. 22

ファイナ・デュオ コンサート

…凜としたたずまいの真の二重奏、結成30年を越え新たな挑戦へ…

ヴァイオリン沼田園子 ピアノ蓼沼明美

2018年11月1日（木）

14:00開演 15:00終演予定

会場：大森赤十字病院 講堂

主催：大森赤十字病院

企画協力：大森赤十字愛好会（代表 三木隆二郎）

プログラム制作：菊田瑠惟

～プログラム～



」シューベルト：ヴァイオリン・ソナタ イ長調 D. 574

1817年、シューベルトが20歳の頃に作曲された作品。全4楽章。

第1楽章は、ソナタ形式。静かなピアノの付点リズムの中での、のびやかなヴァイオリンの第1主題が印象的。

第2楽章は、音階とアルペジオが特徴的な、ヴァイオリンとピアノによる快活な動きの後、たゆたうような半音階の奏でられる中間部へ。

第3楽章は、ゆっくりと歩いているようなフレーズの中、時折激した感情が見え隠れする。中間部ではヴァイオリンとピアノのテンポ良い対話が繰り返される。

第4楽章は、スピード感のある掛け合いから始まる。不安と焦燥感の漂う中間部を経て、再び冒頭のフレーズへ。

」サン＝サーンス：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第2番 変ホ長調 Op. 102

1896年に作曲された、サン＝サーンスの2番目のヴァイオリンソナタ。全4楽章構成。

第1楽章は、ソナタ形式。毅然とした第1主題とヴァイオリンの下降音階を軸にした第2主題の対比が印象的。

第2楽章は、軽快な3拍子。中間部はゆっくりと階段を降りてくるようなピアノのフレーズから。

第3楽章は、上行形のピアノの響きの中で、繊細で息の長いヴァイオリンの旋律が紡がれる。

第4楽章は、ロンド形式。細やかで快活に進む主要主題と悠然とした副主題が交互に現れ、最後は華やかに締めくくられる。



」ドビュッシー：

「ロマンチックなワルツ」

どこか怪しげな雰囲気をつつたワルツ。所々で降りてくる分散和音がきらめき、堂々とフィニッシュ。

「美しき夕暮れ」

フランスの小説家ポール・ブルジェの詩をもとに作曲された歌曲。ゆっくりと波打つようなピアノ伴奏の上にのびやかなヴァイオリンの旋律が乗せられていく。この曲は20世紀に活躍した大ヴァイオリニスト、ハイフェッツの編曲です。

「召使い」(ミンストレス)

ケークウォークのリズムを用いており、黒人のダンス音楽の影響を感じられる一曲。陽気にステップを踏んでいるような雰囲気最後まで続いていく。

「月の光」

フランスの詩人ヴァレーヌの詩から着想を得て作曲された。雲間から漏れ出ているような月の光の様子を、柔らかな高音が描き出す静かな曲。

